

横の猫



海の

横の猫

いつから私のそばにいたのかわからないくらい、その猫は横にいます。

少し拗ねたり少し意地悪な気分になった日に、うちに帰ると「にゃん」と足元に寄ってきたりして。

普段、あんなに一人と一匹。独立して暮らしているのに、こんな時だけどうして分かるのかなあ～

その日、私は会社でちょっとした失敗をした上に上司にねちねちと叱られ、しかも通り雨で、ずぶ濡れになって、うちに帰りつきました。そしたら、猫はずぶ濡れの私に、フンとして、乾いたタオルを差し出したのです。タオルには猫と日向の匂いがして、私はちょびっと泣きました。すると猫は、そそっと鼻先で、ホットミルク(ちょっと冷えぎみ)を差し出しました。私はわあーんと泣き出して、猫は私の頬をペロペロ舐めはじめました。涙はポロポロおちてくるし、猫の舌は意外にザリザリ痛いし。何が何だかわからないまま、泣くだけ泣くと、猫は、餌をいれるお皿の前にちょっと陣取りました。

私は苦笑いしながら、缶詰の高い方をポンっとあげ、猫はじっくり食べました。

いつから私のそばにいたのかわからないくらい、その猫は横にいます。

楽しい気分や嬉しい気分になった日に、うちに帰ると「にゃん」と足元に寄ってきたりして。

普段、あんなに一人と一匹。独立して暮らしているのに、こんな時だけどうして分かるのかなあ～

あの日、私は新しい仕事がうまく片付き、満月に酔い、久しぶりの友人と携帯でおしゃべりしながら、うちに帰りつきました。そしたら、猫は話し中の私に、フンとして、私のストッキングをよじ登りはじめたのです。。私は爪で足が痛くなり、ちょびっと移動しました。すると猫は、背伸びして、ひょいと私の肩にのりました。私はわあーっと叫んでしまい、猫は私の頬をペロペロ舐めはじめました。友人との会話は途切れ途切れになるし、猫の舌は意外にザリザリ痛いし。何が何だかわからないまま、携帯をきると、猫は、餌をいれるお皿の前にちょっと陣取りました。

私は苦笑いしながら、缶詰の高い方をポンっとあげ、猫はすまして食べました。

いつから私のそばにいたのかわからないくらい、その猫は横にいます。

私のいるときもいないときも、猫は黙って猫のやりたいことをしています。

終わり